



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年10月31日

上場会社名 鳥居薬品株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4551 URL <http://www.torii.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 紀彦
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 千葉 昌 TEL (03) 3231-6811
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月1日 配当支払開始予定日 平成23年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	24,025	7.1	1,556	△49.3	1,652	△47.7	959	△45.1
23年3月期第2四半期	22,441	4.5	3,066	△12.3	3,161	△12.5	1,747	△14.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	33 90	—
23年3月期第2四半期	61 74	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	85,386	74,633	87.4
23年3月期	84,885	74,246	87.5

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 74,633百万円 23年3月期 74,246百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	20 00	—	20 00	40 00
24年3月期	—	20 00			
24年3月期(予想)			—	20 00	40 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,800	7.6	3,400	84.3	3,500	73.7	2,100	124.1	74 20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年3月期2Q	28,800,000株	23年3月期	28,800,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	498,342株	23年3月期	498,302株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年3月期2Q	28,301,676株	23年3月期2Q	28,302,317株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは平成23年10月27日付で終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載しております予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおります。したがって、実際の業績は、様々な要素により、これらの予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

◇ 薬事法その他の法令または規制の変化

◇ 薬価の改定

◇ 副作用の発現

◇ 研究開発の遅延または中止

◇ 製商品の供給停止

◇ 訴訟の提起

業績予想の前提となる仮定等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報

(4) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 研究開発活動	3
(4) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
【第2四半期累計期間】	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の売上高は、24,025百万円と前年同期に比べ1,583百万円(7.1%)増加しました。

主要な製品・商品の販売状況につきましては、「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」は4,619百万円と前年同期に比べ1,299百万円(39.1%)増加したほか、「ツルバダ配合錠(抗HIV薬)」は4,724百万円と前年同期に比べ841百万円(21.7%)増加しました。一方、「注射用フサン(蛋白分解酵素阻害剤)」は2,586百万円と前年同期に比べ393百万円(13.2%)減少しました。

費用面におきましては、売上原価は9,958百万円と前年同期に比べ868百万円(9.6%)増加し、販売費及び一般管理費は研究開発費が増加したこと等により12,511百万円と前年同期に比べ2,225百万円(21.6%)増加しました。

以上の結果、営業利益は1,556百万円と前年同期に比べ1,510百万円(49.3%)減少し、経常利益は1,652百万円と前年同期に比べ1,509百万円(47.7%)減少しました。四半期純利益につきましては959百万円と前年同期に比べ788百万円(45.1%)減少しております。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、85,386百万円と前事業年度末に比べ500百万円(0.6%)増加しました。これは、有価証券は16,471百万円減少しましたが、現金及び預金が12,537百万円、投資その他の資産に含まれる投資有価証券が2,986百万円、商品及び製品が1,015百万円増加したこと等によるものです。

負債につきましては、10,753百万円と前事業年度末に比べ113百万円(1.1%)増加しました。これは、未払法人税等は369百万円、退職給付引当金は171百万円減少しましたが、買掛金が760百万円増加したこと等によるものです。

純資産につきましては、74,633百万円と前事業年度末に比べ387百万円(0.5%)増加しました。これは、主に利益剰余金が393百万円増加したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、13,767百万円と前事業年度末に比べ1,422百万円(11.5%)増加しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益が1,604百万円、減価償却費が584百万円、仕入債務の増加額が760百万円となり、法人税等の支払額が1,011百万円、たな卸資産の増加額が722百万円、売上債権の増加額が651百万円となったこと等により361百万円の収入となりました。(前第2四半期累計期間は1,504百万円の収入)

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出が23,000百万円、投資有価証券の取得による支出が3,410百万円、有価証券の取得による支出が2,105百万円となりましたが、有価証券の売却及び償還による収入が18,987百万円、定期預金の払戻による収入が11,500百万円となったこと等により1,662百万円の収入となりました。(前第2四半期累計期間は14,436百万円の支出)

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が566百万円となったことにより578百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は657百万円の支出)

(3) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は2,761百万円であります。

なお、ALK-Abello A/S(本社:デンマーク)から導入しましたダニを抗原とするアレルギー疾患を対象とした減感作(免疫)療法薬(錠剤)の国内第I相臨床試験を開始しております。

(4) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、前回発表(平成23年5月11日「平成23年3月期決算短信(非連結)」)の当該予想数値を修正しております。

売上高は、医薬品の販売状況がほぼ計画どおりに推移していることから、前回発表予想を変更しておりませんが、利益面におきましては、販売費及び一般管理費が当初の計画より減少する見込みとなったこと等から、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回発表予想を上回る見通しとなりました。

現時点における通期の業績予想数値は、売上高は488億円(前回予想のとおり)、営業利益は34億円(対前回予想25.9%増)、経常利益は35億円(対前回予想20.7%増)、当期純利益は21億円(対前回予想61.5%増)を見込んでおります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位: 百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,773	24,311
キャッシュ・マネージメント・システム預託金	12,071	12,456
受取手形及び売掛金	18,435	19,086
有価証券	19,580	3,108
商品及び製品	3,332	4,347
仕掛品	358	412
原材料及び貯蔵品	1,685	1,339
その他	1,326	1,341
流動資産合計	68,563	66,403
固定資産		
有形固定資産	5,671	5,480
無形固定資産	683	642
投資その他の資産	9,968	12,859
固定資産合計	16,322	18,982
資産合計	84,885	85,386
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,816	4,577
未払法人税等	1,050	681
賞与引当金	1,158	1,222
役員賞与引当金	50	29
返品調整引当金	3	2
その他	3,532	3,392
流動負債合計	9,612	9,905
固定負債		
退職給付引当金	507	335
その他	520	512
固定負債合計	1,027	848
負債合計	10,639	10,753
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,190	5,190
資本剰余金	6,416	6,416
利益剰余金	63,397	63,790
自己株式	△857	△857
株主資本合計	74,146	74,539
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	100	93
評価・換算差額等合計	100	93
純資産合計	74,246	74,633
負債純資産合計	84,885	85,386

(2) 四半期損益計算書

【第2四半期累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	22,441	24,025
売上原価	9,089	9,958
売上総利益	13,352	14,067
販売費及び一般管理費		
販売促進費	1,798	2,031
給料及び手当	2,183	2,251
賞与引当金繰入額	1,006	1,007
研究開発費	960	2,761
その他	4,336	4,460
販売費及び一般管理費合計	10,285	12,511
営業利益	3,066	1,556
営業外収益		
受取利息	73	58
受取配当金	16	15
為替差益	2	8
その他	17	14
営業外収益合計	110	97
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	14	0
営業外費用合計	15	1
経常利益	3,161	1,652
特別利益		
投資有価証券売却益	—	14
特別利益合計	—	14
特別損失		
固定資産除却損	7	2
災害による損失	—	59
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	143	—
特別損失合計	150	62
税引前四半期純利益	3,010	1,604
法人税等	1,262	644
四半期純利益	1,747	959

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	3,010	1,604
減価償却費	682	584
受取利息及び受取配当金	△89	△74
支払利息	0	0
固定資産除売却損益(△は益)	7	1
売上債権の増減額(△は増加)	△700	△651
たな卸資産の増減額(△は増加)	398	△722
仕入債務の増減額(△は減少)	190	760
未払金の増減額(△は減少)	△216	△9
その他	30	△195
小計	3,313	1,298
利息及び配当金の受取額	94	75
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△1,903	△1,011
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,504	361
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△13,500	△23,000
定期預金の払戻による収入	7,500	11,500
有価証券の取得による支出	△11,792	△2,105
有価証券の売却及び償還による収入	4,685	18,987
有形固定資産の取得による支出	△287	△225
有形固定資産の売却による収入	0	1
無形固定資産の取得による支出	△165	△101
投資有価証券の取得による支出	△900	△3,410
投資有価証券の売却及び償還による収入	2	17
その他	21	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,436	1,662
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△622	△566
リース債務の返済による支出	△34	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△657	△578
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△13,589	1,422
現金及び現金同等物の期首残高	35,406	12,344
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,817	13,767

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期会計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。



2012年3月期 第2四半期決算 参考資料

I. 主な経営指標等の推移

- 1. 経営成績P. 1
- 2. 財政状態P. 1

II. 損益の状況

- 1. 四半期損益計算書P. 2
- 2. 製商品売上高P. 3
- 3. 売上原価P. 4
- 4. 研究開発費P. 4

III. 財政の状況

- 1. 四半期貸借対照表P. 5
- 2. 四半期キャッシュ・フロー計算書P. 6

IV. 設備投資の状況

.....P. 7

V. 非資金項目

.....P. 7

【予想数値に関する注意事項】P. 7

※ 本資料の数字は、百万円未満を切捨てて表示しております。

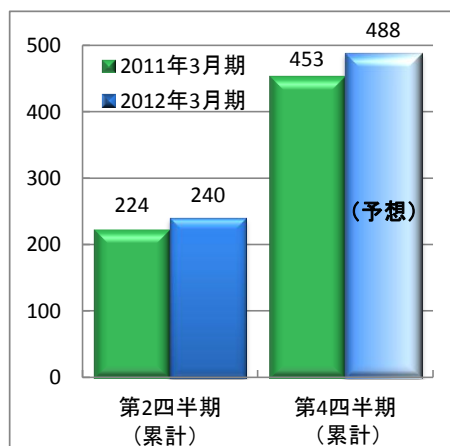
2011年10月31日

I. 主な経営指標等の推移

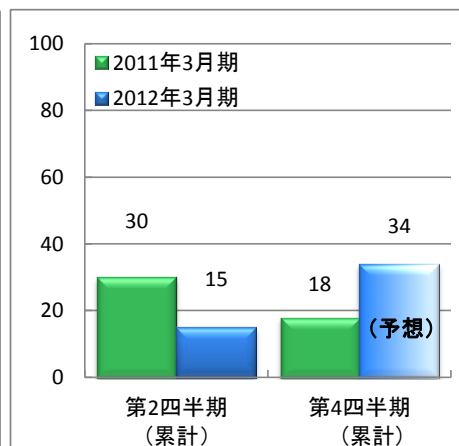
1. 経営成績

	2011年3月期				2012年3月期		2012年3月期予想 ※	
	第1四半期	第2四半期 (累計)	第3四半期 (累計)	第4四半期 (累計)	第2四半期 (累計)	対前年同期増減(率: %)	対前期増減(率: %)	
売上高	11,378	22,441	34,473	45,335	24,025	1,583 (7.1)	48,800	3,464 (7.6)
営業利益	1,802	3,066	4,828	1,844	1,556	△1,510 (△49.3)	3,400	1,555 (84.3)
経常利益	1,865	3,161	4,989	2,015	1,652	△1,509 (△47.7)	3,500	1,484 (73.7)
四半期(当期)純利益	970	1,747	2,852	937	959	△788 (△45.1)	2,100	1,162 (124.1)
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	34.27	61.74	100.78	33.11	33.90	△27.84 (△45.1)	74.20	41.09 (124.1)
自己資本四半期(当期)純利益率 (%)	1.3	2.3	3.8	1.3	1.3	△1.0 —	—	—
総資産経常利益率 (%)	2.2	3.7	5.8	2.4	1.9	△1.8 —	—	—
売上高営業利益率 (%)	15.8	13.7	14.0	4.1	6.5	△7.2 —	—	—

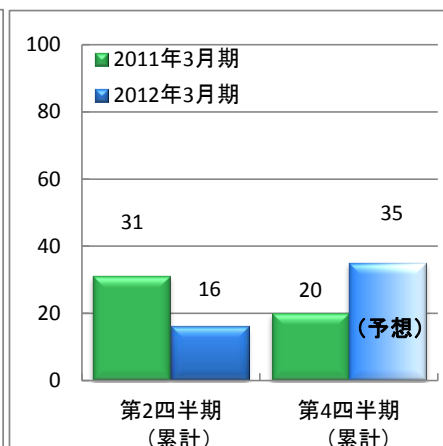
売上高 (億円)



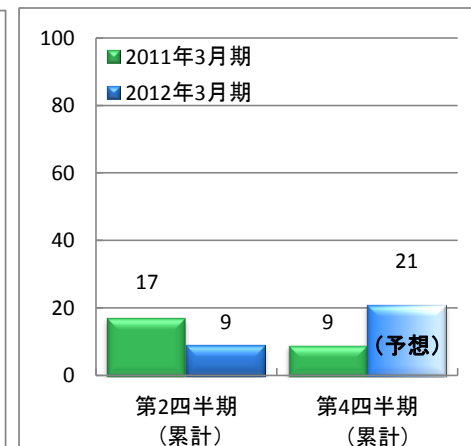
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



四半期(当期)純利益 (億円)



2. 財政状態

	2011年3月期				2012年3月期		2012年3月期予想 ※	
	第1四半期	第2四半期 (累計)	第3四半期 (累計)	第4四半期 (累計)	第2四半期 (累計)	対前期末増減(率: %)	対前期増減(率: %)	
総資産	83,912	85,813	85,997	84,885	85,386	500 (0.6)	—	
純資産	74,957	75,717	76,216	74,246	74,633	387 (0.5)	—	
自己資本比率 (%)	89.3	88.2	88.6	87.5	87.4	△0.1 —	—	
1株当たり純資産 (円)	2,648.47	2,675.34	2,692.99	2,623.38	2,637.06	13.68 (0.5)	—	

※ 2012年3月期予想につきましては、予想数値を修正しております。

II. 損益の状況

1. 四半期損益計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 第2四半期 (累計)	2012年3月期		2011年 3月期	主な増減要因
		第2四半期 (累計)	対前年同期増減(率：%)		
売上高	22,441	24,025	1,583 (7.1)	45,335	【製商品売上高】 《増加要因》・レミッチカプセル、ツルバダ配合錠の増加 《減少要因》・注射用フサンの減少
製商品売上高	22,315	23,911	1,595 (7.1)	45,094	
不動産賃貸収入	125	114	△ 11 (△ 9.2)	240	
売上原価	9,089	9,958	868 (9.6)	18,602	【製商品売上原価】 《増加要因》・売上高の増加
製商品売上原価	9,046	9,925	879 (9.7)	18,521	
不動産賃貸原価	43	32	△ 10 (△ 25.2)	81	
売上総利益	13,352	14,067	715 (5.4)	26,732	【販売費及び一般管理費】 《増加要因》・研究開発費の増加
販売費及び一般管理費	10,285	12,511	2,225 (21.6)	24,887	
営業利益	3,066	1,556	△ 1,510 (△ 49.3)	1,844	
営業外収益	110	97	△ 12 (△ 11.6)	210	
営業外費用	15	1	△ 14 (△ 90.5)	39	
経常利益	3,161	1,652	△ 1,509 (△ 47.7)	2,015	
特別利益	—	14	14 —	2	【特別損失】 《減少要因》・前期：資産除去債務会計基準の適用に伴う影響
特別損失	150	62	△ 88 (△ 58.7)	178	
税引前四半期(当期)純利益	3,010	1,604	△ 1,406 (△ 46.7)	1,839	
法人税等	1,262	644	△ 617 (△ 48.9)	901	
四半期(当期)純利益	1,747	959	△ 788 (△ 45.1)	937	

2. 製商品売上高

(単位：百万円)

(単位：百万円)

品名	2011年3月期 第2四半期 (累計)	第2四半期 (累計)	2012年3月期		2011年 3月期	2012年3月期予想			
			対前年同期増減(率：%)			対前期増減(率：%)			
ツルバダ配合錠	抗ウイルス化学療法剤 〔抗HIV薬〕	3,883	4,724	841	(21.7)	8,252	10,370	2,117	(25.7)
レミッチカプセル	経口そう痒症改善剤	3,320	4,619	1,299	(39.1)	7,366	9,520	2,153	(29.2)
アンテベート ※	外用副腎皮質ホルモン剤	3,149	3,291	142	(4.5)	6,247	6,530	282	(4.5)
注射用フサン ※	蛋白分解酵素阻害剤	2,979	2,586	△ 393	(△ 13.2)	5,829	4,990	△ 839	(△ 14.4)
ユリノーム錠 ※	尿酸排泄薬 〔高尿酸血症治療剤〕	1,734	1,648	△ 85	(△ 4.9)	3,425	3,200	△ 225	(△ 6.6)
ドボネックス軟膏	尋常性乾癬治療剤	883	908	24	(2.8)	1,749	1,890	140	(8.0)
ゼフナート	抗真菌薬	858	872	14	(1.7)	1,387	1,400	12	(0.9)
ビオスリー	活性生菌製剤 〔整腸剤〕	761	821	60	(7.9)	1,593	1,700	106	(6.7)
ロコイド ※	外用副腎皮質ホルモン剤	675	690	14	(2.2)	1,315	1,370	54	(4.1)
ケイキサレート ※(注2)	高カリウム血症改善剤	450	685	234	(52.0)	959	1,460	500	(52.2)
セロトーン	5-HT ₃ アンタゴニスト(制吐剤)	1,039	684	△ 354	(△ 34.2)	1,846	1,240	△ 606	(△ 32.9)
マグセント注	切迫早産における子宮収縮抑制剤	582	590	7	(1.4)	1,174	1,220	45	(3.9)
ウブレチド錠 ※	コリンエステラーゼ阻害薬	523	513	△ 9	(△ 1.8)	1,049	1,030	△ 19	(△ 1.8)
その他		1,474	1,273	△ 201	(△ 13.7)	2,898	2,660	△ 238	(△ 8.2)
計		22,315	23,911	1,595	(7.1)	45,094	48,580	3,485	(7.7)

(注1) 自社品には、品名に※を付しております。

(注2) 2011年2月から「ケイキサレート散」の新しい剤形として開発した「ケイキサレートドライシロップ」の販売を開始しております。

【参考】	自 社 品 売 上 高	10,031	9,901	△ 130	(△ 1.3)	19,865	19,620	△ 245	(△ 1.2)
	自 社 品 比 率 (%)	45.0	41.4	△ 3.6	—	44.1	40.4	△ 3.7	—

3. 売上原価

(単位：百万円)

	2011年3月期 第2四半期 (累計)	第2四半期 (累計)	2012年3月期	
			対前年同期増減(率：%)	
売上高	22,441	24,025	1,583	(7.1)
売上原価	9,089	9,958	868	(9.6)
売上原価率(%)	40.5	41.4	0.9	—

(単位：百万円)

2011年 3月期	2012年3月期予想		
		対前期増減(率：%)	
45,335	48,800	3,464	(7.6)
18,602	20,500	1,897	(10.2)
41.0	42.0	1.0	—

4. 研究開発費

(単位：百万円)

	2011年3月期 第2四半期 (累計)	第2四半期 (累計)	2012年3月期	
			対前年同期増減(率：%)	
研究開発費	960	2,761	1,801	(187.6)

(単位：百万円)

2011年 3月期	2012年3月期予想		
		対前期増減(率：%)	
5,994	5,371	△ 623	(△ 10.4)

【主な臨床開発品目】

開発名	予定適応症等	開発段階	備考
T0-194SL	スギ花粉アレルギーエキスをを用いた舌下投与による減感作(免疫)療法薬	国内 Phase III	自社開発
TRK-820 (レミツカブ [®] セル)	慢性肝疾患に伴う難治性そう痒症改善剤(適応拡大)	国内 Phase III	東レ株式会社および日本たばこ産業株式会社との共同開発
JTT-751	高リン血症治療薬	国内 Phase III	日本たばこ産業株式会社との共同開発

Ⅲ. 財政の状況

1. 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	2011年 3月期	2012年3月期 第2四半期		2011年 3月期 第2四半期	主な増減要因
			対前期末増減(率：%)		
流動資産	68,563	66,403	△ 2,159 (△ 3.1)	70,813	
現金及び預金	11,773	24,311	12,537	14,383	
キャッシュ・マネージメント ・システム預託金(注)	12,071	12,456	384	20,933	【受取手形及び売掛金】 《増加要因》・売上高の増加
受取手形及び売掛金	18,435	19,086	651	17,123	
有価証券	19,580	3,108	△ 16,471	12,201	【有価証券】 《減少要因》・債券の償還
たな卸資産	5,377	6,099	722	5,193	
その他	1,326	1,341	15	977	
固定資産	16,322	18,982	2,660 (16.3)	15,000	【たな卸資産】 《増加要因》・売上増加に伴う商品在庫の増加
有形固定資産	5,671	5,480	△ 190 (△ 3.4)	6,016	
無形固定資産	683	642	△ 40 (△ 5.9)	706	
投資その他の資産	9,968	12,859	2,891 (29.0)	8,277	【投資有価証券】 《増加要因》・債券の取得
投資有価証券	4,229	7,215	2,986	3,289	
長期前払費用	3,149	3,052	△ 97	3,462	
その他	2,589	2,591	2	1,525	
資産合計	84,885	85,386	500 (0.6)	85,813	
流動負債	9,612	9,905	293 (3.1)	8,902	【買掛金】 《増加要因》・商品仕入による増加
買掛金	3,816	4,577	760	3,966	
未払法人税等	1,050	681	△ 369	1,307	
賞与引当金	1,158	1,222	63	1,178	
その他	3,586	3,424	△ 161	2,450	
固定負債	1,027	848	△ 179 (△ 17.5)	1,193	
負債合計	10,639	10,753	113 (1.1)	10,095	
株主資本	74,146	74,539	393 (0.5)	75,523	
評価・換算差額等	100	93	△ 6 (△ 6.2)	194	
純資産合計	74,246	74,633	387 (0.5)	75,717	
負債純資産合計	84,885	85,386	500 (0.6)	85,813	

(注) 「キャッシュ・マネージメント・システム預託金」は、JTグループにおいて国内グループ会社を対象としたキャッシュ・マネージメント・システムを統括している日本たばこ産業(株)への資金の預託であります。

2. 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 第2四半期 (累計)	2012年3月期		2011年 3月期
		第2四半期 (累計)	対前年同期増減	
税引前四半期(当期)純利益	3,010	1,604	△ 1,406	1,839
減価償却費	682	584	△ 97	1,394
売上債権の増減額(△は増加)	△ 700	△ 651	48	△ 2,012
たな卸資産の増減額(△は増加)	398	△ 722	△ 1,120	215
仕入債務の増減額(△は減少)	190	760	570	40
法人税等の支払額	△ 1,903	△ 1,011	891	△ 3,011
その他	△ 173	△ 202	△ 29	1,018
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,504	361	△ 1,142	△ 516
有形固定資産の取得による支出	△ 287	△ 225	62	△ 553
無形固定資産の取得による支出	△ 165	△ 101	64	△ 276
その他	△ 13,982	1,989	15,972	△ 20,472
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,436	1,662	16,098	△ 21,302
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 657	△ 578	79	△ 1,243
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△ 22	△ 22	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 13,589	1,422	15,012	△ 23,062
現金及び現金同等物の期首残高	35,406	12,344	△ 23,062	35,406
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	21,817	13,767	△ 8,049	12,344

主な増減要因
【たな卸資産の増減額】 《減少要因》・商品在庫の増加
【その他】 《増加要因》 ・前期：債券の取得による支出、定期預金の預入による支出

(注) 現金及び現金同等物は、現金及び預金(預入期間が3ヶ月を超える定期預金を除く)、キャッシュ・マネジメント・システム預託金、有価証券(取得日から償還日迄の期間が3ヶ月を超えるものを除く)からなっております。

IV. 設備投資の状況

	2011年3月期 第2四半期 (累計)		2012年3月期 対前年同期増減(率: %)		2011年 3月期	2012年3月期予想 対前期増減(率: %)	
		第2四半期 (累計)					
有形固定資産(注1)	264	281	16	(6.3)	516	660	143 (27.8)
無形固定資産(注2)	162	75	△87	(△53.7)	280	252	△28 (△10.2)
計	426	356	△70	(△16.5)	797	912	114 (14.4)

(注1) 当期の有形固定資産に係る設備投資は、主に製品品質・生産性の向上を目的とする製造設備への投資であります。

(注2) 当期の無形固定資産に係る設備投資は、主に営業サポートシステム等、業務の効率化を目的とするソフトウェアへの投資であります。

V. 非資金項目

	(単位: 百万円)	
	2011年3月期 第2四半期 (累計)	2012年3月期 第2四半期 (累計)
減価償却費	682	584
長期前払費用償却費	327	333

【予想数値に関する注意事項】

本資料に記載しております予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおります。したがって、実際の業績は、様々な要素により、これらの予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見通しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- ◇ 薬事法その他の法令または規制の変化
- ◇ 薬価の改定
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 研究開発の遅延または中止
- ◇ 製商品の供給停止
- ◇ 訴訟の提起